

「障害の有無にかかわらず表現活動を楽しむ」

事業代表者(地域連携・貢献活動事業代表者の所属・職・氏名) 教育学部学芸系美術分野 梶原良成研究室
構成員(所属・職・氏名) 認定特定非営利活動法人 もうひとつの美術館 学芸部 梶原 紀子

1. 事業の目的・意義

専門家：黒田太郎（鹿沼市在住 東京藝術大学美術部彫刻科卒）にファシリテーターに、ワークショップを通して、創作活動の楽しさを味わい、一緒に活動することで障害者（児）と健常者（児）との交流や理解を促進し、障害の有無にかかわらず、気軽に愉しく表現行為をする第一歩を提案したい。

2. 事業内容

(1) 県立益子特別支援学校にてワークショップ開催

＜実施日時＞2018. 10. 13（土）10:00～12:00
＜主催＞もうひとつの美術館（梶原紀子）＜コーディネーター＞梶原良成 ＜ファシリテーター＞黒田太郎 ＜実施場所＞益子特別支援学校 体育館 ＜参加者＞益子特別支援学校の児童・生徒とその保護者と家族（PTA合同地区活動委員会で募集）28名 ＜見学者＞教頭及び教諭 2名 ＜記録＞友常みゆき
普段ではなかなか出来ない創作活動の楽しさを親子で味わえるよう、表現活動を支援した。
＜内容＞体育館にブルーシートを敷き、幅1.1m×長さ10mのロール紙を1本広げて、参加者が持参したクレヨンを使い、みんなで創作をした。

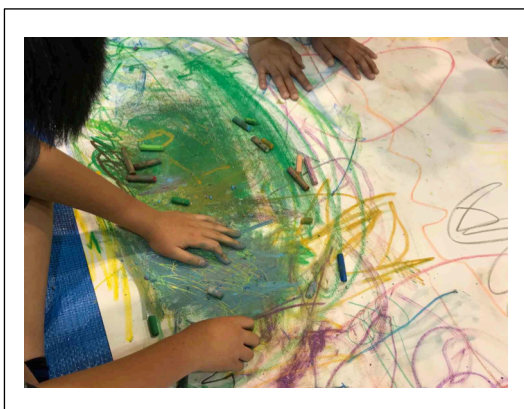


図1. 益子特別支援学校での創作風景

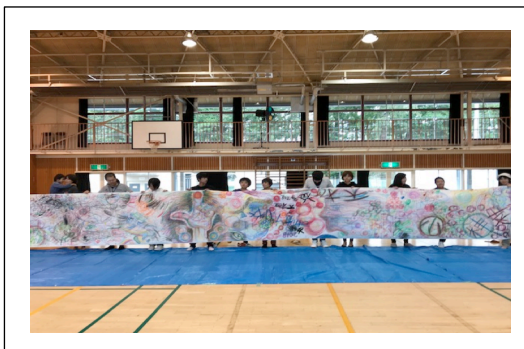


図2. 完成作品を持って集合写真(一部)

(2) 「もうひとつのクラブ」の開催(全5回)

＜実施日時＞(1) 7/15 (2) 8/19 (3) 9/16 (4) 10/21
(5) 11/18 13:30～15:30

＜主催、コーディネーター＞もうひとつの美術館(梶原紀子) ＜ファシリテーター＞黒田太郎 ＜実施場所＞もうひとつの美術館 ワorkshop室

＜参加者＞[7/15] 7名(障3名 小学生1名 大人3名)

[8/19] 5名(障2名、小学生1名、大人2名)

[9/16] 14名(障3名、小学生1名、中学生1名、大学生1名、未就学児2名、大人6名)

[10/21] 10名(障3名、小学生1名、未就学児3名、大人3名)

[11/18] 11名(障4名、小学生1名、大人6名)

＜監修及び記録＞梶原紀子、他1名スタッフ2名

＜内容＞『うまくいくことは面白い うまくいかないことも面白い ワクワクすることは面白い 人と違うことは面白い 未経験のことは面白い とにかくおもしろがってやってみよう。』と言う黒田太郎さんの声かけに応じたり、自分の描きたい絵があれば、それを描いても良しの自由なクラブを5回開催した。
[7/15]: 1m×4mのロール紙にみんなで「山、川、海」をテーマに絵を描いた。 / [8/19]: 「色んな紙に色んな道具を使って描いてみよう。」サイズ、テクスチャの異なる紙に絵を描き、それらを糊付けコラージュ作品にした。 / [9/16]: 「色んな箱(段ボール)に絵を描こう。Ⅰ」 / [10/21]: 「色んな箱(段ボール)に絵を描こう。Ⅱ」 / [11/18]: 「大きさ、形の異なる木片に絵を描こう。」



図3. もうひとつのクラブ[開催日 9/16]

(3) 大田原市立西原小学校でワークショップ開催

＜実施日時＞2018. 10. 17 (水) 10:00～12:00

＜主催＞もうひとつの美術館 (梶原紀子) <コーディネーター>梶原良成 <ファシリテーター>黒田太郎 <実施場所>大田原市立西原小学校 図工室 <参加者>西原小学校在籍の特別支援学級の児童20名<見学者>特別支援学級の担任教諭及び補助教諭7名<記録>五味渕仁美

＜内容＞：県北合同作品展に1年～6年生までみんなで作った作品を飾るという目的のため、図工の時間2時間を使い、図工室にブルーシートを敷き、幅1.1m×長さ10mのロール紙を1本広げて、参加者（児童）が持参したクレヨンを使い、みんなで創作をした。



図 4. 西原小学校での創作の様子

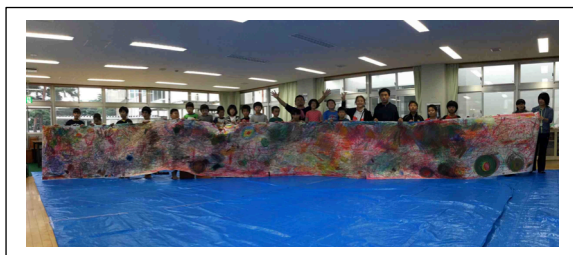


図 5. 西原小学校での完成作品を持って集合写真

3. 事業の進捗状況

(1) 益子特別支援学校にてワークショップ開催

普段大きな紙にクレヨンを使って絵を描くという行為に慣れていない参加者がほとんどであった。自由に体いっぱい使って表現することへの第一歩を踏み出せたのではないかとと思われる。

(2) 「もうひとつのくらぶ」の開催

「もうひとつのくらぶ」のように、障害の有無に関わらず自発的な表現のできる、自由に描ける

場所は、栃木県内にはない。だからなのか、月に一度という間隔であるが、参加者が回を重ねるごとに増え、リピーターも出てきた。

(3) 西原小学校で出前ワークショップ開催

目的が“みんなでひとつの作品を作り、それを飾る”ことであったので、それは大いに達成できたと思う。

4. 事業の成果

(1) 益子特別支援学校にてワークショップ開催

本事業が参加した人たちにとって、固定観念にとらわれない、自由な感覚で創作し、もの作りに親しみを持つきっかけとなったと思われる。

(2) 「もうひとつのくらぶ」の開催

回数を重ねることで、自由な感覚で創作し、もの作りに親しみをもちやすくなったこと、そして障害者と健常者とが創作活動の場を共有することで、参加者どうしが顔馴染みとなり、障害者（児）への理解の深まったと思われる。

(3) 西原小学校で出前ワークショップの開催

参加した障害児学級の児童たち 20 名は 1 年生～6 年生であり、普段一緒に制作したり、同じ授業を受ける事はなかった。彼らにとって自由な感覚で夢中になって自発的な創作時間を共有することができたことは、もの作りに親しみを持つきっかけとなったにちがいない。また先生方は、創作体験中の児童たちの表情が日常の学校生活の時とはまったく異なり、生き生きとした表情をしていることを目の当たりに見て、新たな児童への理解が深まったと思われる。

5. 今後の展望

本事業が一人の人間が子供から大人へと成長して行く上で大きな変化をもたらすものではないかもしれないが、自らの創作を楽しむことは、美術を楽しむだけでなく、自分で物事を考え、組み立てていく思考力の源ともなりうるのではないかとと思われる。

また「もうひとつのくらぶ」のような、障害の有無に関わらない、自由な創作のできる場所を継続して設けていくことは、障害児（者）への理解を深め、他者との違いを認め合うことのできる、豊かな社会形成の第一歩となることが期待される。